

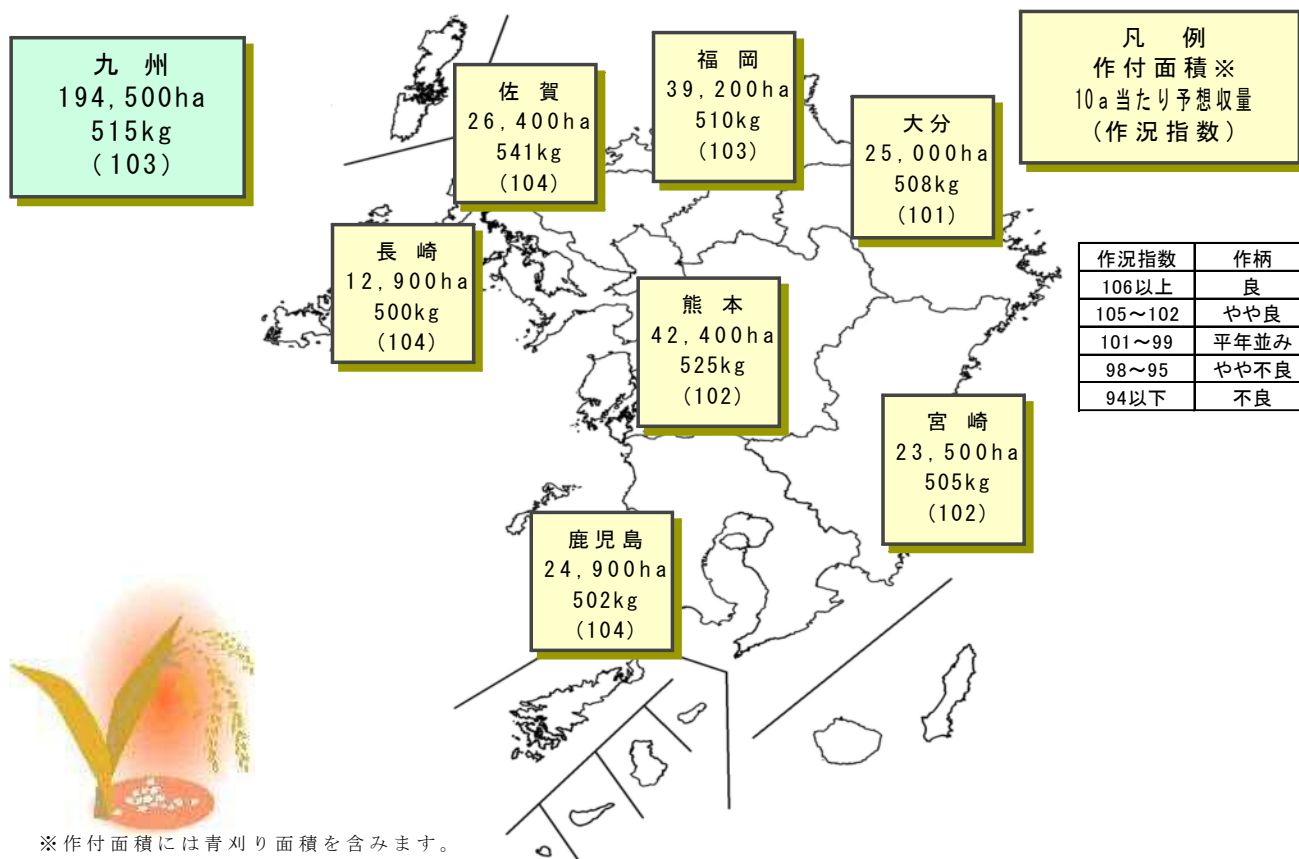
平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（九州）

主食用作付見込面積は15万8,700ha（前年産に比べ2,600ha減少）
10a 当たり予想収量は平年を上回る515kgの見込み

【調査結果の概要】

- 九州における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は19万4,500haで、うち、主食用作付見込面積は15万8,700ha（前年産に比べ2,600ha減少）が見込まれます。
- 水稻の作柄は、梅雨明け以降気温はやや高く日照時間は多めで経過し、生育・登熟はおおむね順調に推移していることから、10a 当たり予想収量は平年を上回る515kg（作況指数103）が見込まれます。
- 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、81万8,500 t（前年産に比べ1,000 t 増加）が見込まれます。

図1 県別水稻作付面積及び10a 当たり予想収量（9月15日現在）



本統計調査結果は、九州農政局ホームページ「統計情報」の「平成29年度農林水産統計調査公表予定および公表結果」で御覧いただけます。【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_all_press.html 】
この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の概要】P28に掲載しています。

◎用語の解説及び特記事項

- ・ 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。(以下同じ。)
- ・ 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- ・ 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
- ・ 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。
なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅(九州では1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- ・ 本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【調査結果】

1 作付面積

水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は19万4,500haで、前年産に比べ1,000ha減少しました。なお、水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、15万8,700haで、前年産に比べ2,600haの減少が見込まれます。

2 作柄概況

(1) 早期栽培水稻(主産県:宮崎・鹿児島)

作柄は、宮崎県が10a当たり収量494kg(作況指数103)、鹿児島県が同472kg(同107)となりました。

これは、宮崎県、鹿児島県ともに5月以降の気温が平年並みに経過し、多照であったことから穂数が「やや多い」となったことに加え、7月上旬以降おおむね天候に恵まれたことから登熟が「やや良」となったためです。

(2) 普通栽培水稻

ア 出穂期は、梅雨明け以降高温・多照で経過したことから、各県とも平年に比べ「4日早い」から「1日早い」となりました。

イ 穂数は、梅雨明け以降高温・多照で経過したことから、福岡県、佐賀県、長崎県及び熊本県は「多い」、鹿児島県は「やや多い」、大分県及び宮崎県は「平年並み」となりました。

1穂当たりもみ数は、大分県は「平年並み」、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県は「やや少ない」となりました。

ウ 登熟は、出穂以降おおむね天候に恵まれたものの、台風の接近及び秋雨前線に伴う風雨による倒伏等があることから、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県及び鹿児島県は「平年並み」ないし「やや不良」、宮崎県については全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用から「やや良」が見込まれます。

エ このことから、10a当たり予想収量は、福岡県は510kg(作況指数103)、佐賀県は541kg(同104)、長崎県は500kg(同104)、熊本県は525kg(同102)、大分県は508kg(同101)、宮崎県は513kg(同101)、鹿児島県は510kg(同104)が見込まれます。

(3) 以上の結果、九州の10a当たり予想収量は平年を上回る515kg(同103)が見込まれます。

3 被害状況

早期栽培では、気象被害として台風接近に伴う風雨による倒伏がみられました。病害では、いもち病、紋枯病、虫害等ではスクミリンゴガイ及びカメムシの発生がみられましたが、総体的に被害は平年に比べやや少なくなっています。

普通栽培では、気象被害として一部地域において6月下旬及び7月上旬の大雨によるほ場への土砂流入及び冠水や、台風接近に伴う風雨による倒伏等がみられます。病害では、いもち病、紋枯病、虫害等ではスクミリンゴガイ、カメムシ、トビイロウンカ及びコブノメイガの発生がみられますが、総体的に被害は平年に比べやや少ない発生となっています。

表1 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量（九州）

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a 当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 10a 当たり 平均収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対差	対比						
	ha	ha	%		kg	kg	kg	ha	t
九州計	194,500	△ 1,000	99	515	499	484	103	158,700	818,500
福岡	39,200	△ 100	100	510	492	477	103	35,100	179,000
佐賀	26,400	0	100	541	525	503	104	24,400	132,000
長崎	12,900	△ 300	98	500	482	463	104	11,600	58,000
熊本	42,400	0	100	525	509	497	102	32,200	169,100
大分	25,000	△ 200	99	508	487	480	101	20,900	106,200
宮崎	23,500	△ 200	99	505	492	482	102	15,000	75,800
うち早期栽培	8,950	△ 90	99	494	486	470	103
うち普通栽培	14,600	0	100	513	496	490	101
鹿児島	24,900	△ 400	98	502	489	469	104	19,600	98,400
うち早期栽培	6,490	△ 130	98	472	464	434	107
うち普通栽培	18,500	△ 100	99	510	496	478	104

- 注：1 作付面積及び主食用作付見込面積はラウンドしているため、県ごとの積み上げ値と九州計とは一致しない場合があります。
 2 九州計の予想収穫量（主食用）は県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算とは一致しない場合があります。
 3 宮崎県及び鹿児島県の早期・普通期別の「主食用作付見込面積」及び「予想収穫量（主食用）」は、調査を作期別にとりまとめていないため、「…」で示しています。
 4 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。
 5 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 6 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表2 平成29年産水稻の作柄概況（9月15日現在）

区 分	10a当たり 予想収量				平 年 比 較			
	①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			穂 数 の 多 少	1 穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
		10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数				
福 岡	kg	kg	kg					
	510	492	477	103	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
福 岡	486	464	459	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
北 東 部	496	480	467	103	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良
筑 後	530	507	491	103	多 い	平年並み	多 い	平年並み
佐 賀	541	525	503	104	多 い	やや少ない	多 い	やや不良
佐 賀	549	532	511	104	多 い	やや少ない	多 い	やや不良
松 浦	505	492	469	105	多 い	平年並み	やや多い	平年並み
長 崎	500	482	463	104	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良
南 部	521	503	486	103	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良
北 部	471	452	429	105	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
五 島	422	409	399	103	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
壱岐・対馬	505	489	467	105	やや多い	やや多い	多 い	平年並み
熊 本	525	509	497	102	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
県 北	536	518	509	102	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
阿 蘇	524	505	486	104	多 い	少ない	やや多い	平年並み
県 南	520	509	494	103	多 い	やや少ない	やや多い	平年並み
天 草	448	439	427	103	やや多い	やや少ない	やや少ない	やや良
大 分	508	487	480	101	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良
北 部	542	520	495	105	多 い	やや多い	多 い	やや不良
湾 岸	500	474	473	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
南 部	491	471	476	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
日 田	489	472	474	100	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
宮 崎	505	492	482	102	…	…	…	…
早期栽培計	494	486	470	103	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良
広域沿海	494	486	470	103	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良
普通栽培計	513	496	490	101	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良
広域沿海	476	460	455	101	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良
広域霧島	535	519	513	101	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良
西北山間	486	464	462	100	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良
鹿 児 島	502	489	469	104	…	…	…	…
早期栽培計	472	464	434	107	やや多い	やや多い	多 い	やや良
薩摩半島	480	471	436	108	やや多い	多 い	多 い	やや不良
大隅半島	481	474	443	107	やや多い	やや多い	やや多い	良
熊毛・大島	438	431	412	105	やや多い	やや多い	多 い	やや不良
普通栽培計	510	496	478	104	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
薩摩半島	498	482	460	105	多 い	やや少ない	多 い	やや不良
出水薩摩	515	502	484	104	多 い	平年並み	多 い	やや不良
伊佐始良	522	505	488	103	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
大隅半島	486	471	465	101	平年並み	少ない	少ない	良

注：1 10a当たり予想収量①は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別については、九州においては1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

3 宮崎県及び鹿児島県の県平均の「平年比較」の指標は、調査を早期栽培・普通栽培別に行っており県平均をとりまとめていないため、「…」で示しています。

表3 平成29年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

区 分	出 穂 期								刈取済面積割合
	始 期		最盛期		終 期		最 盛 期 の 比 較		
	月	日	月	日	月	日	対 平 年 差	対 前 年 差	
福 岡	8.	1	8.	21	9.	4	2日早	1日早	21
福 岡 東 部	7.	18	8.	25	9.	3	2日早	並 み	19
北 東	7.	20	8.	11	8.	29	2日早	並 み	45
筑 後	8.	14	8.	26	9.	9	3日早	1日早	1
佐 賀	7.	19	8.	26	9.	10	3日早	並 み	11
佐 賀 浦	8.	5	8.	28	9.	11	3日早	並 み	6
松	7.	12	8.	11	8.	31	4日早	2日早	34
長 崎	7.	15	8.	24	9.	3	3日早	並 み	14
南 部	8.	17	8.	25	9.	3	3日早	並 み	1
北 部	7.	11	8.	23	9.	3	3日早	1日早	26
五 島	7.	8	8.	20	8.	27	3日早	並 み	25
壱 岐・対馬	7.	15	8.	20	9.	4	2日早	1日遅	38
熊 本	7.	14	8.	21	9.	5	2日早	並 み	9
県 北	8.	18	8.	27	9.	8	2日早	1日遅	1
阿 蘇	7.	26	8.	6	8.	22	4日早	3日早	12
南 草	7.	28	8.	23	9.	8	2日早	並 み	10
天	7.	1	7.	11	8.	23	2日早	1日早	80
大 分	7.	29	8.	23	9.	2	4日早	並 み	4
北 部	7.	25	8.	28	9.	5	3日早	並 み	4
湾 岸	7.	26	8.	23	9.	3	4日早	並 み	5
南 部	7.	31	8.	20	9.	1	3日早	並 み	4
日 田	8.	3	8.	15	8.	24	5日早	2日早	5
宮 崎
早期栽培計	6.	21	6.	28	7.	3	2日遅	7日遅	100
広 域 沿 海	6.	21	6.	28	7.	3	2日遅	7日遅	100
普通栽培計	8.	17	8.	24	9.	2	1日早	1日遅	0
広 域 沿 海	8.	17	8.	22	8.	27	3日早	1日遅	...
広 域 霧 島	8.	17	8.	23	9.	5	2日早	1日遅	...
西 北 山 間	8.	16	8.	26	8.	31	並 み	1日遅	...
鹿 児 島
早期栽培計	6.	16	6.	29	7.	15	2日遅	7日遅	100
薩 摩 半 島	6.	25	6.	30	7.	6	3日遅	9日遅	100
大 隅 半 島	6.	23	6.	29	7.	17	並 み	5日遅	100
熊 毛・大島	6.	13	6.	20	6.	30	並 み	6日遅	100
普通栽培計	8.	17	8.	24	9.	5	3日早	2日遅	0
薩 摩 半 島	8.	16	8.	24	9.	1	3日早	2日遅	...
出 水 薩 摩	8.	18	8.	24	9.	4	2日早	3日遅	...
伊 佐 始 良	8.	16	8.	24	9.	8	2日早	3日遅	...
大 隅 半 島	8.	17	8.	23	9.	3	3日早	1日遅	...

注：1 出穂期の始期とは出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。
 2 宮崎県及び鹿児島県の県平均の「出穂期」及び「刈取済面積割合」は、調査を早期栽培・普通栽培別に行っており県平均をとりまとめていないため、「…」で示しています。

【九州各県の作付面積及び作柄概況】

1 福岡県

(1) 調査結果の概要

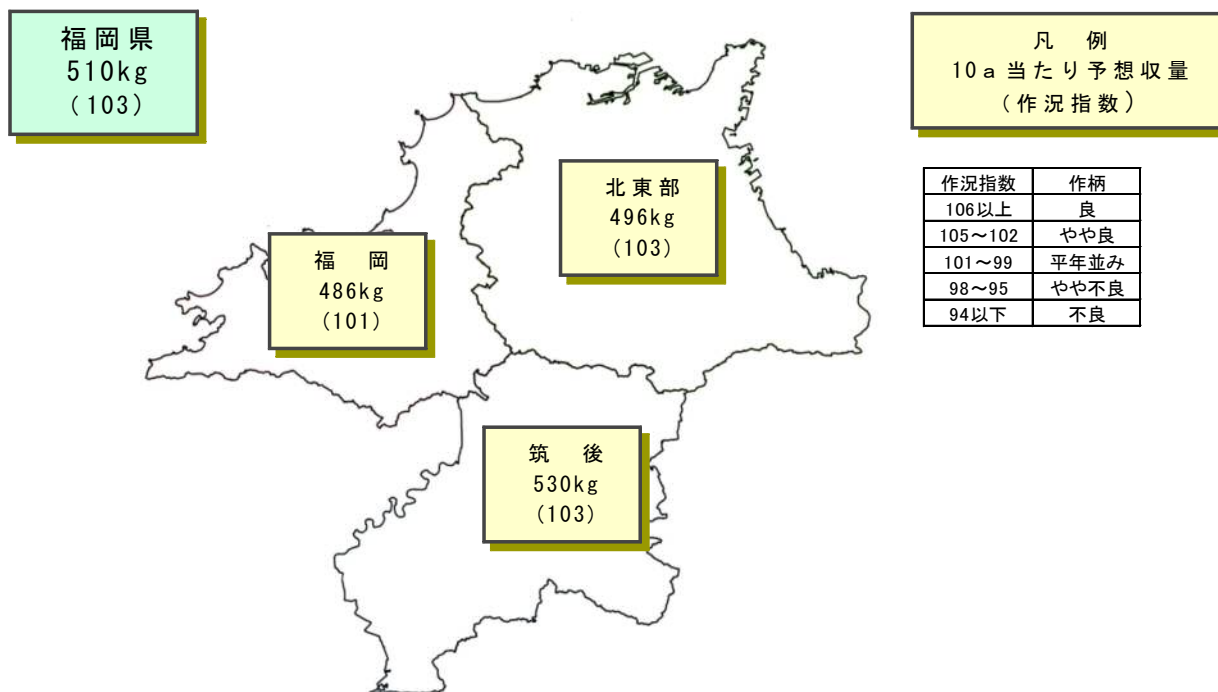
ア 福岡県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は3万9,200haで、主食用作付面積等の減少により前年産に比べ100ha減少しました。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、3万5,100haで、前年産に比べ300haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温・多照に経過し、生育及び登熟はおおむね順調に推移していることから、10a当たり予想収量は平年を上回る510kg（作況指数103）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、17万9,000t（前年産に比べ1,600t増加）が見込まれます。

図2 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
福岡	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、福津市、糸島市、那珂川町、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町
北東部	北九州市、直方市、飯塚市、田川市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、嘉麻市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、桂川町、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町
筑後	大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、小郡市、うきは市、朝倉市、みやま市、筑前町、東峰村、大刀洗町、大木町、広川町

表4 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a 当たり 予想収量	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考		
	実 数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量	10a 当たり 予想収量	10a 当たり 平年収量	作況指数	主食用作付 見込面積	予想収穫量 （主食用）
		対 差	対 比							
	ha	ha	%	kg	kg	kg		ha	t	
福 岡 県	39,200	△ 100	100	510	492	477	103	35,100	179,000	

注：1 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。

3 「△」は、前年より減少したことを示します。

(2) 調査結果

ア 作柄概況

(ア) 福岡地帯

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数ともに「平年並み」となったことから、「平年並み」となりました。

登熟は、早生種の夢つくし等で出穂以降、高温・多照に経過していることから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量^{#1}は平年並みの486kg、作況指数^{#2}は「101」が見込まれます。

(イ) 北東部地帯

全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「平年並み」となりました。

登熟は、早生種の夢つくしで出穂以降、高温・多照に経過していることから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年を上回る496kg、作況指数は「103」が見込まれます。

(ウ) 筑後地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「多い」となりました。

登熟は、ヒノヒカリの登熟期の気温が良好に経過していることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年を上回る530kg、作況指数は「103」が見込まれます。

(エ) 以上の結果、福岡県の10a 当たり予想収量は平年を上回る510kg、作況指数は「103」が見込まれます。

イ 被害状況

気象被害は、一部の地域で7月の九州北部豪雨による土砂流入や冠水等の発生、早期栽培や早生種の夢つくしの一部で高温障害による心白等の発生がみられます。

病害は、いもち病、紋枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病がみられますが、平年に比べやや少ない発生となっています。

虫害等は、トビイロウンカの発生が多くなっています。

総体的に被害は、平年並みの発生となっています。

注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

2 佐賀県

(1) 調査結果の概要

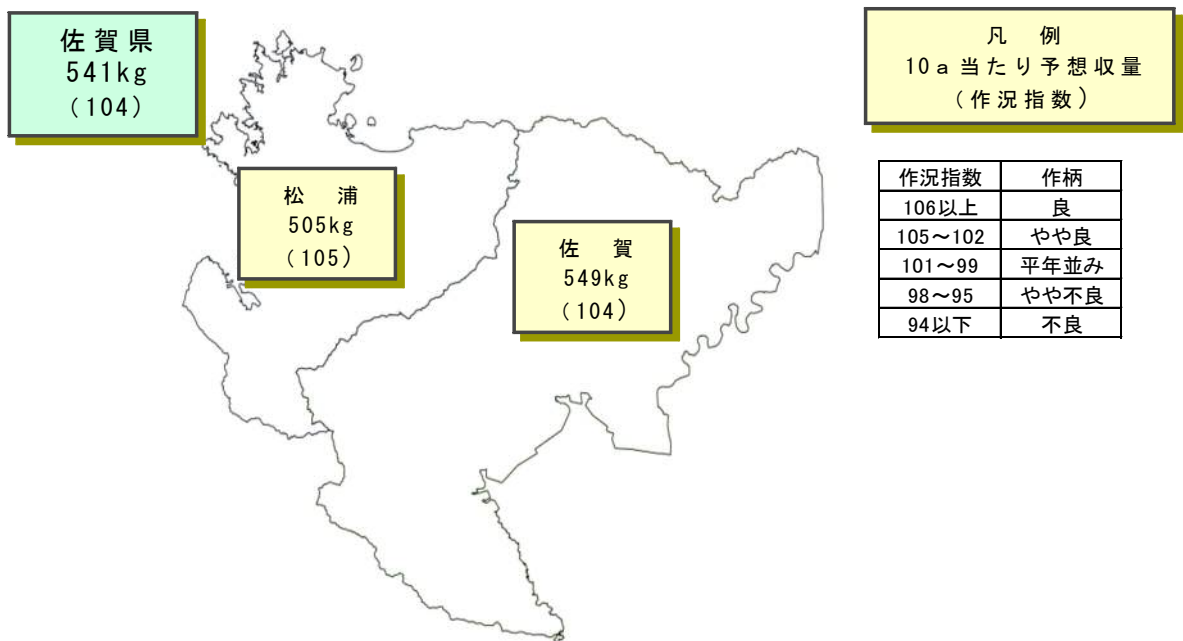
ア 佐賀県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万6,400haで、主食用作付面積の減少があったものの、新規需要米等の作付面積が増加したことから前年並みとなりました。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、2万4,400haで、前年産に比べ200haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温・多照に経過し、もみ数が多くなっていることから、10a当たり予想収量は平年を上回る541kg（作況指数104）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、13万2,000t（前年産に比べ3,800t増加）が見込まれます。

図3 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
佐賀	佐賀市、鳥栖市、多久市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、大町町、江北町、白石町、太良町
松浦	唐津市、伊万里市、玄海町、有田町

表5 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a 当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
	ha	ha	%	kg	kg	kg		ha	t
佐 賀 県	26,400	0	100	541	525	503	104	24,400	132,000

注：1 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。

(2) 調査結果

ア 作柄概況

(ア) 佐賀地帯

全もみ数は、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となりましたが、穂数が「多い」ことから、「多い」となりました。

登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用と、出穂以降やや日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量^{注1}は平年を上回る549kg、作況指数^{注2}は「104」が見込まれます。

(イ) 松浦地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、極早生・早生種の出穂期以降、天候に恵まれたことから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年を上回る505kg、作況指数は「105」が見込まれます。

(ウ) 以上の結果、佐賀県の10a 当たり予想収量は平年を上回る541kg、作況指数は「104」が見込まれます。

イ 被害状況

気象被害は、一部に降雨による倒伏の発生がみられます。

病害は、紋枯病が平年に比べやや多く、いもち病は平年に比べやや少ない発生となっています。

虫害等は、スクミリンゴガイ及びトビイロウンカの発生が多くなっています。

総合的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっています。

注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

3 長崎県

(1) 調査結果の概要

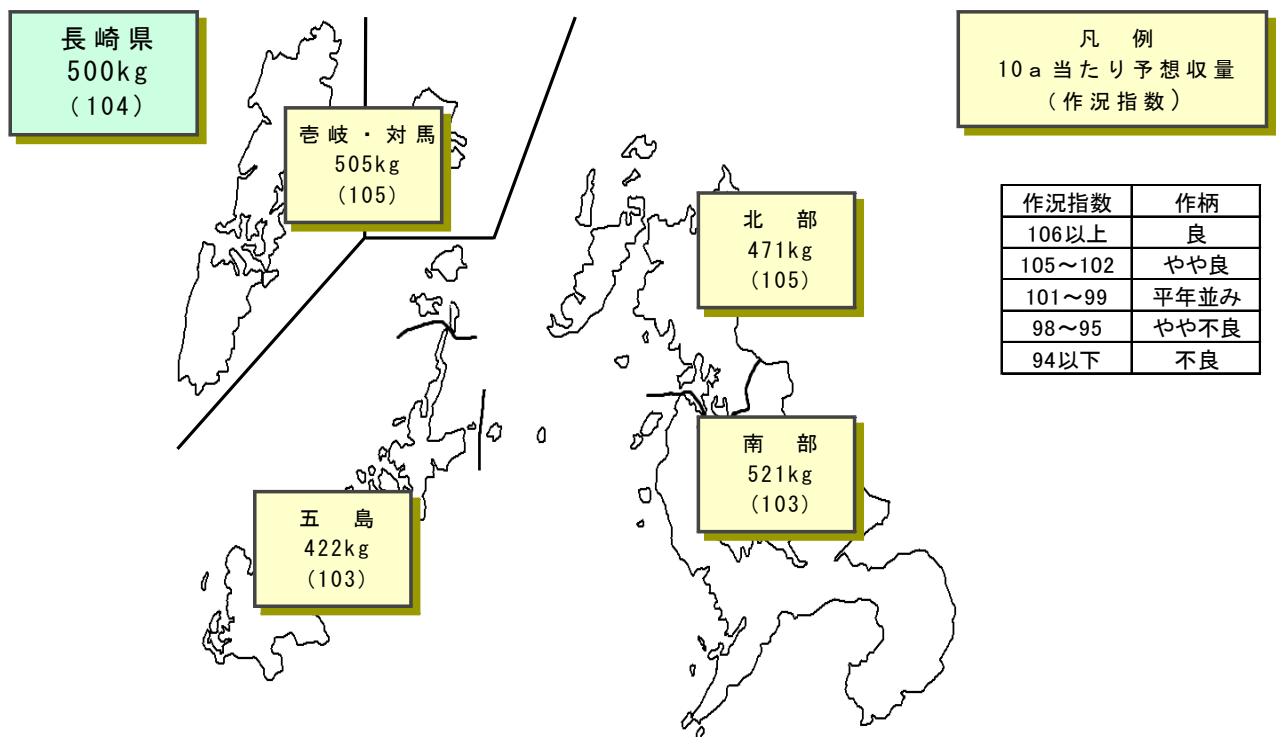
ア 長崎県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万2,900haで、主食用作付面積の減少により前年産に比べ300ha減少しました。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、1万1,600haで、前年産に比べ400haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温・多照で経過し、生育はおおむね順調に推移していることから10a当たり予想収量は平年を上回る500kg（作況指数104）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、5万8,000t（前年産に比べ1,500t減少）が見込まれます。

図4 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
南部	長崎市、島原市、諫早市、大村市、西海市、雲仙市、南島原市、長与町、時津町、東彼杵町、川棚町、波佐見町
北部	佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町
五島	五島市、新上五島町
壱岐・対馬	対馬市、壱岐市

表6 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
長 崎 県	ha 12,900	ha △ 300	% 98	kg 500	kg 482	kg 463		ha 11,600	t 58,000

注：1 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。

3 「△」は、前年より減少したことを示します。

(2) 調査結果

ア 作柄概況

(ア) 南部地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、もみ数がやや多いことによる相反作用で、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量^{※1}は平年を上回る521kg、作況指数^{※2}は「103」が見込まれます。

(イ) 北部地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、早期栽培の登熟が良好であったことから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る471kg、作況指数は「105」が見込まれます。

(ウ) 五島地帯

全もみ数は、穂数が「平年並み」となったものの、1穂当たりもみ数が「やや多い」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、もみ数がやや多いことによる相反作用で、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る422kg、作況指数は「103」が見込まれます。

(エ) 壱岐・対馬地帯

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数ともに「やや多い」となったことから「多い」となりました。

登熟は、早期栽培の登熟が良好であったことから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る505kg、作況指数は「105」が見込まれます。

(オ) 以上の結果、長崎県の10a当たり予想収量は平年を上回る500kg、作況指数は「104」が見込まれます。

イ 被害状況

気象被害は、出穂期の風雨によるもみの変色がみられます。

病害は、いもち病、紋枯病がみられますが、平年に比べやや少ない発生となっています。

虫害等は、トビイロウンカの発生が多くなっています。

総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっています。

注：1 10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

4 熊本県

(1) 調査結果の概要

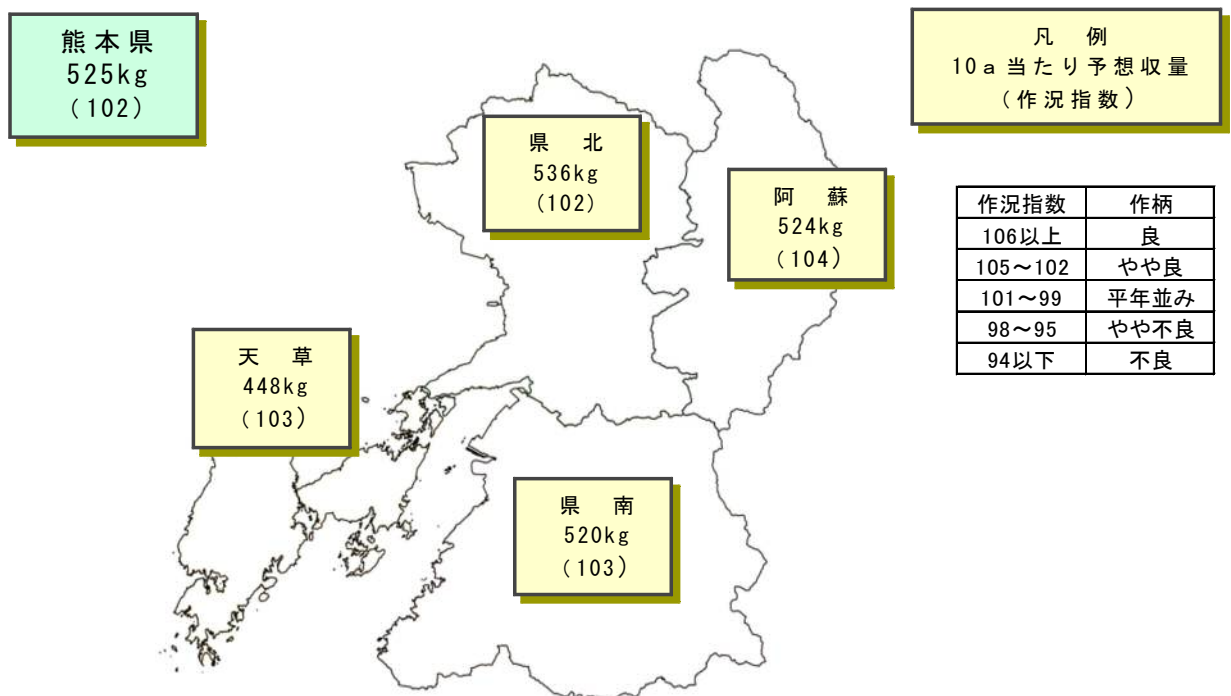
ア 熊本県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は4万2,400haで、主食用作付面積の減少があったものの、新規需要米等の作付面積が増加したことから前年並みとなりました。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、3万2,200haで、前年産に比べ300haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温・多照に経過し、生育及び登熟はおおむね順調に推移していることから、10a当たり予想収量は平年を上回る525kg（作況指数102）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、16万9,100t（前年産に比べ2,200t減少）が見込まれます。

図5 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
県 北	熊本市、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇土市、宇城市、合志市、美里町、玉東町、南関町、長洲町、和水町、大津町、菊陽町、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町
阿 蘇	阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村、南阿蘇村、山都町
県 南	八代市、人吉市、水俣市、氷川町、芦北町、津奈木町、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、あさぎり町
天 草	天草市、上天草市、苓北町

表7 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量				参 考	
	実 数	前年産との比較		①	(参考)農家等が使用している ふるい目幅で選別			主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 (主食用) ⑥=①×⑤
		対 差	対 比		10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③		
	ha	ha	%	kg	kg	kg		ha	t
熊 本 県	42,400	0	100	525	509	497	102	32,200	169,100

注：1 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。

(2) 調査結果

ア 作柄概況

(ア) 県北地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量^{注1}は平年を上回る536kg、作況指数^{注2}は「102」(が見込まれます。

(イ) 阿蘇地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「少ない」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る524kg、作況指数は「104」が見込まれます。

(ウ) 県南地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る520kg、作況指数は「103」が見込まれます。

(エ) 天草地帯

全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となりました。

登熟は、早期栽培の登熟が良好であったことから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る448kg、作況指数は「103」が見込まれます。

(オ) 以上の結果、熊本県の10a当たり予想収量は平年を上回る525kg、作況指数は「102」が見込まれます。

イ 被害状況

気象被害は、一部降雨による倒伏の発生がみられます。

病害は、いもち病、紋枯病がみられますが、平年に比べやや少ない発生となっています。

虫害等は、早期栽培においてカメムシの発生がみられました。

総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっています。

注：1 10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

4 大分県

(1) 調査結果の概要

ア 大分県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万5,000haで、主食用作付面積の減少により前年産に比べ200ha減少しました。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、2万900haで、前年産に比べ200haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、梅雨明け以降高温で経過し、生育はおおむね順調に推移しているものの、日照時間が平年並みで経過していることから、10a当たり予想収量は平年並みの508kg（作況指数101）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、10万6,200t（前年産に比べ100t減少）が見込まれます。

図6 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北 部	中津市、豊後高田市、宇佐市
湾 岸	大分市、別府市、杵築市、由布市、国東市、姫島村、日出町
南 部	佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市
日 田	日田市、九重町、玖珠町

表 8 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
大 分 県	ha 25,000	ha △ 200	% 99	kg 508	kg 487	kg 480		ha 20,900	t 106,200

注：1 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成29年9月15日現在)を除いた面積(見込み)です。

3 「△」は、前年より減少したことを示します。

(2) 調査結果

ア 作柄概況

(ア) 北部地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「やや多い」となったことから、「多い」となりました。

登熟は、もみ数が多いことによる相反作用で、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量^{注1}は平年を上回る542kg、作況指数^{注2}は「105」が見込まれます。

(イ) 湾岸地帯

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数ともに「平年並み」となったことから、「平年並み」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年並みの500kg、作況指数は「100」が見込まれます。

(ウ) 南部地帯

全もみ数は、1穂当たりもみ数が「平年並み」となったものの、穂数が「やや少ない」となり、「やや少ない」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年並みの491kg、作況指数は「99」が見込まれます。

(エ) 日田地帯

全もみ数は、1穂当たりもみ数が「やや多い」となったものの、穂数が「平年並み」となり、「平年並み」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年並みの489kg、作況指数は「100」が見込まれます。

(オ) 以上の結果、大分県の10a当たり予想収量は平年並みの508kg、作況指数は「101」が見込まれます。

イ 被害状況

気象被害は、一部の地域で7月の九州北部豪雨による土砂流入や冠水等の発生、降雨による倒伏の発生がみられます。

病害は、紋枯病、内穎褐変病、もみ枯細菌病の発生が平年並みにみられますが、いもち病の発生はやや少なくなっています。

虫害等は、スクミリンゴガイ、カメムシの発生がみられます。総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっています。

注：1 10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

6 宮崎県

(1) 調査結果の概要

ア 宮崎県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万3,500haで、主食用作付面積の減少により前年産に比べ200ha減少しました。

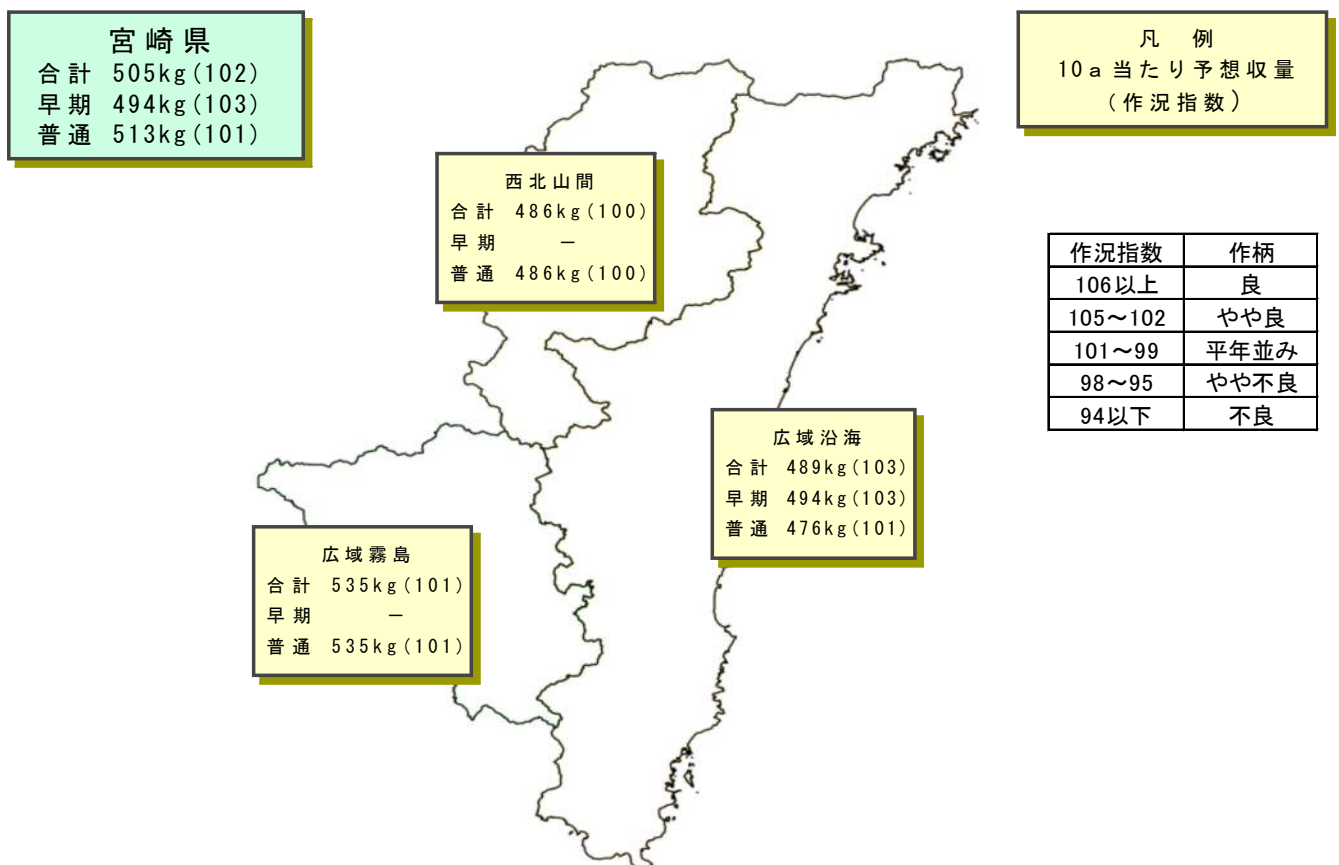
なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、1万5,000haで、前年産に比べ500haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、早期栽培は5月上旬以降多照に経過し穂数がやや多くなったことや、7月上旬以降おおむね天候に恵まれ登熟がやや良となったことから、10a当たり収量は平年を上回る494kg（作況指数103）となりました。

普通栽培は7月上旬以降おおむね天候に恵まれ穂数が平年並みとなったことや、8月下旬以降高温・多照に推移し登熟が順調であることから、10a当たり予想収量は平年を上回る513kg（同101）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は7万5,800t（前年産に比べ1,400t減少）が見込まれます。

図7 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 図7中の「—」は、事実のないことを示しています。

2 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

3 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表9 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
	ha	ha	%		kg	kg	kg	ha	t
宮 崎 県	23,500	△ 200	99	505	492	482	102	15,000	75,800
うち早期栽培	8,950	△ 90	99	494	486	470	103	…	…
うち普通栽培	14,600	0	100	513	496	490	101	…	…

注：1 早期栽培・普通栽培別の「主食用作付見込面積」及び「予想収穫量（主食用）」は、調査を作期別にとりまとめていないため「…」で示しています。

2 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）です。

4 「△」は、前年より減少したことを示します。

(2) 調査結果

ア 早期栽培水稻の作柄概況

(ア) 作柄概況

全もみ数は、穂数が「やや多い」となったことから、平年に比べ「やや多い」となりました。

登熟は、7月上旬以降、おおむね天候に恵まれたことから、「やや良」となりました。

このことから、10a当たり収量^{注1}は平年を上回る494kg（前年との差+33kg）、作況指数^{注2}は「103」となりました。

(イ) 被害状況

気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で、一部で倒伏の発生がみられました。

病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べやや少なくなりました。

虫害等は、カメムシの発生が多く、スクミリンゴガイによる食害も平年に比べやや多くみられました。

総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となりました。

イ 普通栽培水稻の作柄概況

(ア) 作柄概況

a 広域沿海地帯

全もみ数は、穂数が「平年並み」となりましたが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となりました。

登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降、高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量^{注1}は平年並みの476kg、作況指数^{注2}は「101」が見込まれます。

b 広域霧島地帯

全もみ数は、穂数が「平年並み」となりましたが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となりました。

登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年並みの535kg、作況指数は「101」が見込まれます。

c 西北山間地帯

全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となりました。

登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期以降高温・多照に推移していることから、「やや良」が見込まれます。

このことから、10a当たり予想収量は平年並みの486kg、作況指数は「100」が見込まれます。

d 以上の結果、宮崎県の普通栽培水稻の10 a 当たり予想収量は平年並みの513kg、作況指数は「101」が見込まれます。

(イ) 被害状況

気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で葉先裂傷等がみられます。

病害は、いもち病や紋枯病の発生は平年に比べやや少ない発生となっています。

虫害等は、スクミリンゴガイの食害は平年並みですが、一部の地域では、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっています。

総体的に被害は、平年並みの発生となっています。

注： 1 10 a 当たり収量及び10 a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
広域沿海	宮崎市、日南市、串間市、西都市、延岡市、日向市、国富町、綾町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町
広域霧島	都城市、小林市、えびの市、三股町、高原町
西北山間	高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、美郷町、諸塚村、椎葉村、西米良村

7 鹿児島県

(1) 調査結果の概要

ア 鹿児島県における平成29年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は2万4,900haで、主食用作付面積の減少により前年産に比べ400ha減少しました。

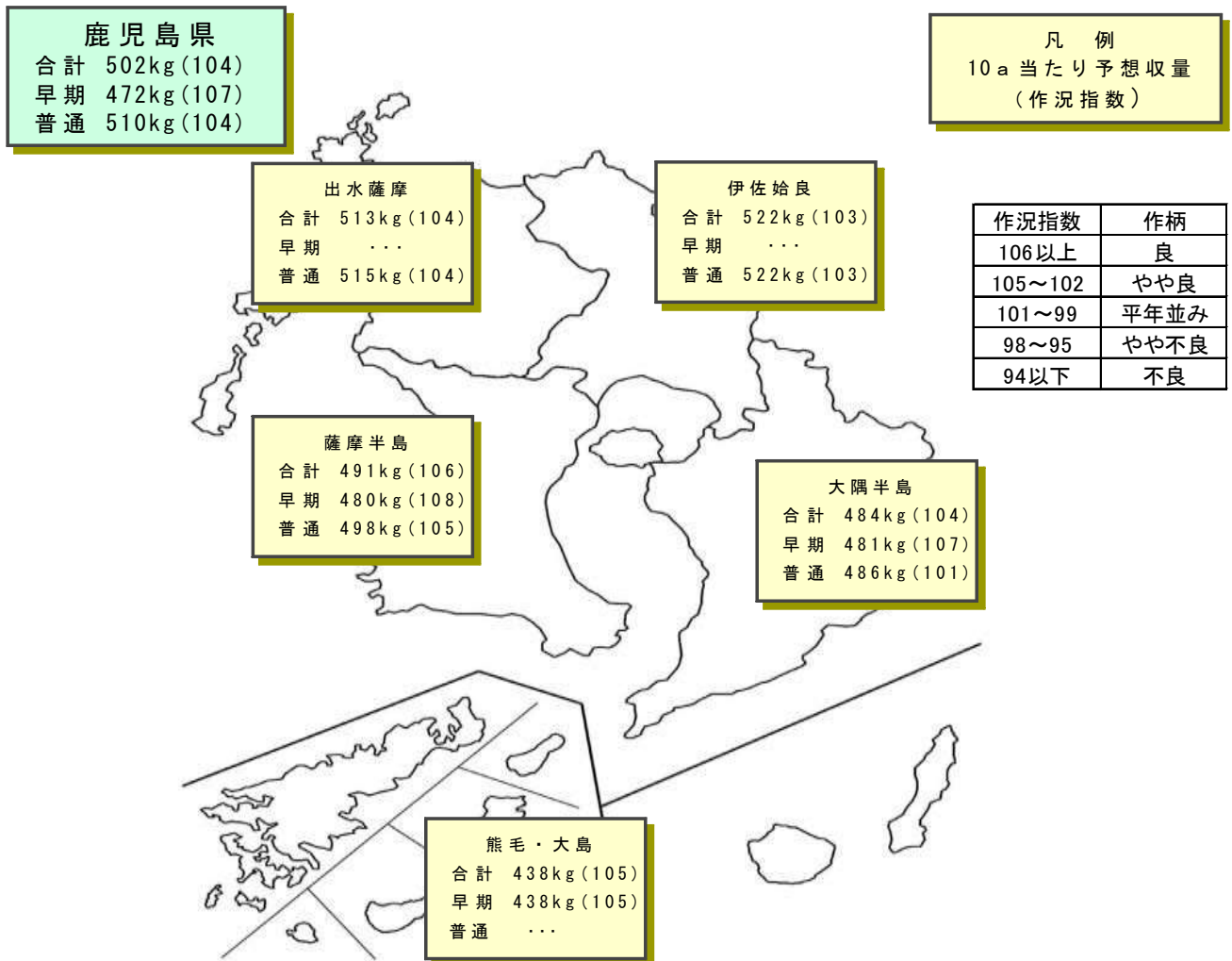
なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は、1万9,600haで、前年産に比べ600haの減少が見込まれます。

イ 水稻の作柄は、早期栽培は5月上旬以降多照に経過し、全もみ数が多くなったことや、7月上旬以降おおむね天候に恵まれ登熟がやや良となったことから、10a当たり収量は平年を上回る472kg（作況指数107）となりました。

普通栽培は梅雨明け以降が高温・多照に経過し、生育及び登熟はおおむね順調に推移していることから、10a当たり予想収量は平年を上回る510kg（同104）が見込まれます。

ウ 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は9万8,400t（前年産に比べ800t増加）が見込まれます。

図8 作柄表示地帯別10a当たり予想収量（9月15日現在）



注：1 図8中の「…」は、調査を欠くことを示しています。

2 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

3 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表10 平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a 当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			参 考	
	実 数	前年産との比較			10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	主食用作付 見込面積 ⑤	予想収穫量 （主食用） ⑥=①×⑤
		対 差	対 比						
	ha	ha	%		kg	kg	kg	ha	t
鹿 児 島 県	24,900	△ 400	98	502	489	469	104	19,600	98,400
うち早期栽培	6,490	△ 130	98	472	464	434	107	…	…
うち普通栽培	18,500	△ 100	99	510	496	478	104	…	…

注：1 早期栽培・普通栽培別の「主食用作付見込面積」及び「予想収穫量（主食用）」は、調査を作期別にとりまとめているため「…」で示しています。

2 青刈りには、飼料用米、WCS用稲、わら専用稲等を含みます。

3 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）です。

4 「△」は、前年より減少したことを示します。

(2) 調査結果

ア 早期栽培水稻の作柄概況

(ア) 作柄概況

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数ともに「やや多い」となったことから、「多い」となりました。

登熟は、降雨等により一部地域で不稔もみが発生したものの、登熟期全般が高温・多照で経過し粒の肥大や充実が良好であったことから、「やや良」となりました。

このことから、鹿児島県の早期栽培水稻の10a 当たり収量^{注1}は平年を上回る472kg（前年との差+43kg）、作況指数^{注2}は「107」となりました。

(イ) 被害状況

気象被害は、台風第5号の影響は軽微なものとなりました。

病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べ少なくなりました。

虫害等は、カメムシの発生がみられました。

総体的に被害は、平年に比べ少ない発生となりました。

イ 普通栽培水稻の作柄概況

(ア) 作柄概況

a 薩摩半島地帯

全もみ数は、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となりましたが、穂数が「多い」ことから、「多い」となりました。

登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用から、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量^{注1}は平年を上回る498kg、作況指数^{注2}は「105」が見込まれます。

b 出水薩摩地帯

全もみ数は、穂数が「多い」となり、1穂当たりもみ数は「平年並み」となったことから、「多い」となりました。

登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用から、「やや不良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年を上回る515kg、作況指数は「104」が見込まれます。

c 伊佐始良地帯

全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1穂あたりもみ数は「やや少ない」となったことから、「平年並み」となりました。

登熟は、出穂期以降、おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年を上回る522kg、作況指数は「103」が見込まれます。

d 大隅半島地帯

全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1穂あたりもみ数が「少ない」となったことから、「少ない」となりました。

登熟は、出穂期以降、日照時間に恵まれ、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「良」が見込まれます。

このことから、10a 当たり予想収量は平年並みの486kg、作況指数は「101」が見込まれます。

e 以上の結果、鹿児島県の普通栽培水稻の10a 当たり予想収量は平年を上回る510kg、作況指数は「104」が見込まれます。

(イ) 被害状況

気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で葉先裂傷等がみられます。

病害は、いもち病の発生は平年並みの発生となっています。

虫害等は、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっています。

総体的に被害は平年に比べやや少ない発生となっています。

注： 1 10a 当たり収量及び10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

2 作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

〈作柄表示地帯区分〉

区分	作柄表示地帯に包括される市町村
薩摩半島	鹿児島市、枕崎市、指宿市、日置市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、三島村、十島村
出水薩摩	阿久根市、出水市、薩摩川内市、さつま町、長島町
伊佐始良	霧島市、伊佐市、始良市、湧水町
大隅半島	鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町
熊毛・大島	西之表市、奄美市、中種子町、南種子町、屋久島町、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

表11 水稻の年次別推移（九州）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	234,900	479	1,124,000	…	…	100
10	215,800	498	1,075,000	…	…	103
11	213,900	416	889,700	…	…	85
12	210,500	510	1,073,000	…	…	103
13	202,600	511	1,035,000	…	…	104
14	199,600	505	1,008,000	…	…	102
15	196,800	480	945,600	…	…	96
16	201,900	424	855,800	…	…	85
17	202,300	474	959,500	…	…	94
18	200,200	390	780,400	…	…	78
19	195,800	478	936,200	…	…	95
20	190,600	508	968,700	189,500	962,600	101
21	189,800	506	960,700	188,600	954,600	101
22	190,000	491	933,000	188,400	925,100	98
23	183,500	505	927,000	181,300	915,400	100
24	183,300	489	895,700	181,200	884,500	97
25	183,500	488	895,700	180,900	882,900	97
26	178,200	482	858,800	173,700	837,300	96
27	170,700	484	826,800	166,300	806,100	96
28	165,700	507	839,700	161,300	817,500	101
29 (見込み)	…	515	…	158,700	818,500	103

資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』（以下同じ。）

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。（以下同じ。）

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成29年9月15日現在）を除いた面積（見込み）です。（以下同じ。）

3 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。（以下同じ。）

4 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示しています。（以下同じ。）

◎累年データ（つづき）

表12 水稲の年次別推移（福岡県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	47,700	479	228,500	99
10	43,600	503	219,300	103
11	43,100	431	185,800	88
12	42,600	515	219,400	104
13	40,900	515	210,600	104
14	40,600	511	207,500	103
15	40,400	483	195,100	97
16	42,100	415	174,700	83
17	41,600	482	200,500	96
18	41,200	382	157,400	76
19	40,000	485	194,000	97
20	39,600	501	198,400	39,200	196,400	100
21	39,400	499	196,600	39,000	194,600	100
22	39,400	486	191,500	39,000	189,500	97
23	38,700	503	194,700	38,100	191,600	101
24	38,500	490	188,700	37,900	185,700	98
25	38,700	479	185,400	38,100	182,500	96
26	37,500	478	179,300	36,900	176,400	96
27	36,500	480	175,200	35,900	172,300	95
28	36,000	501	180,400	35,400	177,400	100
29 (見込み)	...	510	...	35,100	179,000	103

表13 水稲の年次別推移（佐賀県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	34,400	496	170,600	96
10	31,500	539	169,800	104
11	31,400	444	139,400	86
12	31,000	536	166,200	102
13	28,700	544	156,100	104
14	28,600	533	152,400	101
15	28,400	500	142,000	95
16	29,300	422	123,600	80
17	29,500	491	144,800	93
18	29,000	262	76,000	49
19	28,100	504	141,600	95
20	26,900	517	139,100	26,700	138,000	98
21	26,900	527	141,800	26,800	141,200	100
22	27,800	493	137,100	27,700	136,600	94
23	26,600	531	141,200	26,400	140,200	101
24	26,600	509	135,400	26,400	134,400	97
25	26,700	489	130,600	26,400	129,100	93
26	25,600	480	122,900	25,300	121,400	92
27	25,300	513	129,800	25,000	128,300	99
28	24,800	521	129,200	24,600	128,200	100
29 (見込み)	...	541	...	24,400	132,000	104

◎累年データ（つづき）

表14 水稻の年次別推移（長崎県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	17,200	444	76,400	…	…	101
10	15,700	468	73,500	…	…	105
11	15,600	402	62,700	…	…	88
12	15,200	480	73,000	…	…	104
13	14,700	485	71,300	…	…	105
14	14,400	473	68,100	…	…	101
15	14,200	448	63,600	…	…	96
16	14,500	430	62,400	…	…	91
17	14,700	450	66,200	…	…	95
18	14,700	322	47,300	…	…	68
19	14,600	472	68,900	…	…	100
20	14,300	480	68,600	14,200	68,200	101
21	14,100	479	67,500	14,000	67,100	101
22	14,000	449	62,900	13,900	62,400	94
23	13,700	486	66,600	13,700	66,600	102
24	13,700	468	64,100	13,600	63,600	98
25	13,500	468	63,200	13,500	63,200	98
26	13,200	463	61,100	13,200	61,100	97
27	12,500	479	59,900	12,500	59,900	100
28	12,000	496	59,500	12,000	59,500	104
29（見込み）	…	500	…	11,600	58,000	104

表15 水稻の年次別推移（熊本県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	48,800	495	241,600	…	…	100
10	45,200	515	232,800	…	…	104
11	44,900	407	182,700	…	…	81
12	44,000	517	227,500	…	…	102
13	42,700	522	222,900	…	…	103
14	41,900	523	219,100	…	…	103
15	40,800	491	200,300	…	…	96
16	42,300	396	167,500	…	…	77
17	42,600	479	204,100	…	…	93
18	42,000	440	184,800	…	…	85
19	41,000	513	210,300	…	…	100
20	39,700	522	207,200	39,300	205,100	101
21	39,700	515	204,500	39,200	201,900	100
22	39,500	512	202,200	39,100	200,200	99
23	37,900	519	196,700	37,300	193,600	101
24	38,100	501	190,900	37,600	188,400	97
25	38,400	502	192,800	37,500	188,300	97
26	37,500	500	187,500	36,100	180,500	97
27	35,600	500	178,000	34,300	171,500	97
28	33,800	527	178,100	32,500	171,300	102
29（見込み）	…	525	…	32,200	169,100	102

◎累年データ（つづき）

表16 水稻の年次別推移（大分県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産	30,500	479	146,100	…	…	100
10	28,200	499	140,700	…	…	104
11	27,800	387	107,600	…	…	80
12	27,500	516	141,900	…	…	105
13	26,800	512	137,200	…	…	104
14	26,400	513	135,400	…	…	103
15	26,100	485	126,600	…	…	97
16	26,200	432	113,200	…	…	86
17	26,200	459	120,300	…	…	91
18	26,200	395	103,500	…	…	79
19	25,900	493	127,700	…	…	98
20	24,800	519	128,700	24,800	128,700	103
21	24,800	502	124,500	24,800	124,500	100
22	24,400	495	120,800	24,300	120,300	98
23	23,500	499	117,300	23,400	116,800	99
24	23,600	491	115,900	23,500	115,400	98
25	23,800	484	115,200	23,700	114,700	96
26	22,900	489	112,000	22,700	111,000	97
27	21,900	478	104,700	21,700	103,700	95
28	21,300	504	107,400	21,100	106,300	100
29（見込み）	…	508	…	20,900	106,200	101

◎累年データ（つづき）

表17 水稲の年次別推移（宮崎県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産 (1)	25,700	462	118,700	101
10 (2)	23,600	433	102,200	94
11 (3)	23,400	426	99,700	90
12 (4)	22,700	495	112,400	104
13 (5)	21,900	487	106,700	102
14 (6)	21,400	481	102,900	100
15 (7)	20,900	464	97,000	96
16 (8)	21,700	462	100,300	95
17 (9)	21,800	473	103,100	97
18 (10)	21,500	465	100,000	95
19 (11)	21,000	372	78,100	76
20 (12)	20,400	511	104,200	20,300	103,700	104
21 (13)	20,200	514	103,800	20,200	103,800	104
22 (14)	20,100	496	99,700	20,000	99,200	100
23 (15)	19,000	489	92,900	18,800	91,900	98
24 (16)	19,100	473	90,300	18,900	89,400	95
25 (17)	18,900	495	93,600	18,700	92,600	100
26 (18)	18,600	486	90,400	17,400	84,600	98
27 (19)	17,300	464	80,300	16,100	74,700	93
28 (20)	16,800	498	83,700	15,500	77,200	100
29 (見込み) (21)	...	505	...	15,000	75,800	102

表18 水稲の年次別推移（鹿児島県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成 9 年産 (1)	30,600	465	142,300	102
10 (2)	28,000	487	136,400	106
11 (3)	27,800	402	111,800	86
12 (4)	27,500	481	132,300	102
13 (5)	26,800	486	130,200	103
14 (6)	26,300	467	122,800	98
15 (7)	25,900	467	121,000	98
16 (8)	26,000	439	114,100	92
17 (9)	25,800	467	120,500	98
18 (10)	25,600	435	111,400	91
19 (11)	25,300	457	115,600	95
20 (12)	24,900	492	122,500	24,900	122,500	103
21 (13)	24,700	494	122,000	24,600	121,500	103
22 (14)	24,800	479	118,800	24,400	116,900	100
23 (15)	24,100	488	117,600	23,500	114,700	101
24 (16)	23,800	464	110,400	23,200	107,600	96
25 (17)	23,500	489	114,900	23,000	112,500	101
26 (18)	22,900	461	105,600	22,200	102,300	95
27 (19)	21,600	458	98,900	20,900	95,700	95
28 (20)	21,000	483	101,400	20,200	97,600	100
29 (見込み) (21)	...	502	...	19,600	98,400	104

◎累年データ（つづき）

早期栽培				普通栽培				
作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参考) 作況指数	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参考) 作況指数	
ha	kg	t		ha	kg	t		
12,100	456	55,200	102	13,600	468	63,600	99	(1)
11,000	349	38,400	78	12,600	506	63,800	106	(2)
10,800	423	45,700	94	12,600	429	54,100	87	(3)
10,200	465	47,400	102	12,500	519	64,900	105	(4)
9,610	468	45,000	103	12,300	502	61,700	102	(5)
9,300	461	42,900	100	12,100	496	60,000	99	(6)
9,000	428	38,500	93	11,900	491	58,400	98	(7)
9,230	500	46,200	109	12,400	434	53,800	86	(8)
9,370	488	45,700	105	12,500	462	57,800	91	(9)
9,340	472	44,100	100	12,100	460	55,700	91	(10)
9,150	205	18,800	43	11,900	501	59,600	99	(11)
8,790	505	44,400	106	11,600	516	59,900	102	(12)
8,760	517	45,300	109	11,400	512	58,400	101	(13)
8,580	479	41,100	100	11,500	509	58,500	100	(14)
7,890	462	36,500	96	11,100	509	56,500	100	(15)
7,970	471	37,500	98	11,100	474	52,600	93	(16)
8,000	476	38,100	99	10,900	509	55,500	100	(17)
7,820	488	38,200	102	10,800	485	52,400	95	(18)
7,090	411	29,100	85	10,200	501	51,100	98	(19)
6,730	461	31,000	97	10,000	523	52,300	103	(20)
...	494	...	103	...	513	...	101	(21)

早期栽培				普通栽培				
作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参考) 作況指数	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参考) 作況指数	
ha	kg	t		ha	kg	t		
8,700	426	37,100	102	21,900	481	105,300	102	(1)
7,900	395	31,200	94	20,100	523	105,100	110	(2)
7,730	434	33,500	103	20,100	389	78,200	81	(3)
7,540	440	33,200	103	19,900	497	98,900	102	(4)
7,190	438	31,500	103	19,700	503	99,100	103	(5)
6,860	430	29,500	100	19,500	480	93,600	98	(6)
6,620	399	26,400	93	19,300	490	94,600	100	(7)
6,520	458	29,900	106	19,500	432	84,200	88	(8)
6,360	459	29,200	105	19,500	469	91,500	95	(9)
6,340	435	27,600	99	19,300	435	84,000	88	(10)
6,290	298	18,700	68	19,000	509	96,700	103	(11)
5,950	467	27,800	106	19,000	500	95,000	102	(12)
5,800	466	27,000	106	18,900	502	94,900	102	(13)
5,890	430	25,300	98	18,900	494	93,400	100	(14)
5,540	428	23,700	97	18,600	506	94,100	103	(15)
5,450	425	23,200	96	18,300	475	86,900	96	(16)
5,490	461	25,300	104	18,000	497	89,500	100	(17)
5,320	455	24,200	103	17,600	463	81,500	94	(18)
4,910	396	19,400	88	16,700	476	79,500	96	(19)
4,610	429	19,800	96	16,400	498	81,700	100	(20)
...	472	...	107	...	510	...	104	(21)

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査対象数（九州管内計）

(1) 作付面積調査

標本単位区：6,027単位区 巡回・見積り：233市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：1,495筆 作況基準筆：101筆

3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

4 調査期日

(1) 作付面積調査：平成29年7月15日現在

(2) 作柄概況調査：平成29年9月15日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査を行い、集計は調査事項について、実測調査結果を集計し、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめました。

(2) 作柄概況調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査を行い、集計は調査事項について、実測調査結果を集計し、巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめました。

6 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

(6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多少 (良否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率です。
 なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

7 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法で四捨五入しています。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁以上 (10万)	5 桁以上 (万)	4 桁以上 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（九州）」（農林水産省九州農政局）による旨を記載してください。

8 その他

- (1) この資料のうち作付面積の数値は概数値です。
 確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成30年2月予定）するとともに、その後刊行する「平成29年耕地及び作付面積統計」に掲載します。
- (2) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、各地域の水稻の生育段階に応じて、計測可能な穂数やもみ数等の収量構成要素の実測値をもとに作柄予測を行ったもので、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。
- (3) 図及び表中に用いた記号は以下のとおりです。
 「…」：事実不詳又は調査をかくもの
 「△」：負数又は減少したもの
 「—」：事実のないもの

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/>



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>

お問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電話：(代)096-211-9111 内線 4943・4944

直通電話：096-300-6576

◎各県別の調査結果について

県名等	連絡先	電話番号
福岡	九州農政局 福岡県拠点 統計チーム	(代)092-281-8261 内線323, 324
佐賀	九州農政局 佐賀県拠点 統計チーム	(直通)0952-26-4138
長崎	九州農政局 長崎県拠点 統計チーム	(直通)095-845-5236
熊本	九州農政局 統計部 統計調査チーム	(直通)096-300-6583
大分	九州農政局 大分県拠点 統計チーム	(直通)097-532-6177
宮崎	九州農政局 宮崎県拠点 統計チーム	(直通)0985-24-2373
鹿児島	九州農政局 鹿児島県拠点 統計チーム	(直通)099-222-7564

◎農林統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部 統計企画課 企画係

電話：(代)096-211-9111 内線 4924

直通電話：096-300-6538